

MERS、韓国で感染拡大

今日6月22日は、二十四節季の夏至です。一年中で最も日照時間が長い日とのことですが、日本の各地は梅雨の真只中、大気の状態も不安定で雷雨や落雷への注意が必要です。このところ毎年のように起こる局地的な集中豪雨による災害、万が一に備えた対策や準備も大切です。

さて、お隣の韓国で中東呼吸器症候群（MERS）の感染拡大が続いています。MARSは、2012年に初めて報告されて以降、中東諸国を中心に感染が持続している新興感染症で、病原体はMERSコロナウイルスです。MARSは咳などによる飛沫感染が知られていますが、感染力はそれほど強くなく、季節性インフルエンザのような、持続的なヒトーヒト感染は確認されていません。有効なワクチンや治療薬はなく、WHO推計では、致死率は約40%とされています。

韓国での今回最初の感染症例は、仕事で中東諸国に2週間ほど滞在し、5月初めに帰国した60歳代の男性で、帰国時には無症状だったものの、その後に発熱等の症状を訴えて医療機関を受診しています。しかしながら、感染症の発症を疑われるような、明らかな接触歴がなかったことなどから診断が遅れ、MARSと診断されるまでに3病院を受診し、医療従事者や同一病棟の患者、その家族に2次感染が多数発生しています。さらに2次感染者の追跡調査が徹底できなかったことも加わり、感染者は169名、うち死亡者は25名（6月21日現在）に上っています。

WHOは、6月13日に韓国政府と合同で感染状況を調査し、ヒトーヒト感染をしやすいになっている、市中で感染が広がっている、との証拠はないとしているものの、対策の効果を確認できるまでには、まだ数週間を要するとしています。また、16日にはIHRの緊急委員会を開催し、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」には該当しないとの見解を示しました。

韓国政府は、今月中に感染の拡大を食い止めたいとしています。依然として、隔離対象者は自宅隔離を含め4000名を超えています。日本と韓国との間は観光やビジネスなど人の行き来も多く、我が国への感染拡大の不安は拭えません。

政府は、韓国での感染症の発生を受け、入国検疫の強化、疑いがある患者が発生した場合の対応フローの再徹底など、MERS感染防御に万全の備えを実施していますが、韓国や中東などMERS発生国から帰国する人をはじめ、国民一人一人の対応への理解と協力も大切となっています。